

適合証明業務規程

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この適合証明業務規程（以下、「規程」という。）は、一般財団法人滋賀県建築住宅センター（以下、「センター」という。）が、適合証明業務（独立行政法人住宅金融支援機構法（平成17年法律第82号）に基づく工事審査で、住宅若しくは建築物又は改良工事が独立行政法人住宅金融支援機構（以下、「機構」という。）の定める基準に適合することを証明する業務をいう。以下同じ。）の実施について、機構と締結した適合証明業務に関する協定書（以下、単に「協定書」という。）の規定に基づき必要な事項を定めるものである。

(用語の定義)

第2条 この規程における用語の定義は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 品確法 住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成11年法律第81号）をいう。
- (2) 確認検査 建築基準法（昭和25年法律第201号）第77条の18に規定する確認検査をいう。
- (3) 評価 品確法第5条第1項に規定する住宅性能評価をいう。
- (4) 保険検査 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律（平成19年法律第66号）第19条第1号から第3号までに規定する業務に係る住宅の検査をいう。
- (5) 適合証明業務実施者 適合証明検査機関が適合証明業務を行わせる者をいう。
- (6) 適合証明業務決裁者 適合証明業務実施者のうち、適合証明検査機関が行う適合証明業務の適否について最終的な判断を行う者をいう。
- (7) 個人情報保護法 個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）をいう。
- (8) 個人情報等 個人情報保護法第2条第1項に規定する個人情報及び秘密情報をいう。
- (9) 事務リスク 適合証明検査機関の役員、職員又は適合証明業務実施者が、適合証明業務に関して正確な事務処理を怠ること、又は事故、不正等を起こすことにより損失を被るリスクをいう。

(適合証明業務の基本方針)

第3条 センターは、適合証明業務を行うにあたり、法令、機構が定める業務方法書及び事務処理に関する諸規範等によるほか、この規程により公正かつ的確に実施する。

- 2 センターは、適合証明に係る住宅の検査を希望する者から適合証明業務の依頼があった場合には、やむを得ない理由がある場合を除き、これを拒否しない。
- 3 センターは、適合証明業務の依頼を受理した場合には依頼者に引受承諾書を交付し、この場合、依頼者とセンターは別に定める「適合証明業務約款」に基づき契約を締結したものとする。

(適合証明業務を行う時間及び休日)

第4条 適合証明業務を行う時間は、次項に定める休日を除き、午前9時00分から午後5時30分までとする。

2 適合証明業務の休日は、次の各号に掲げる日とする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
- (3) 12月29日から翌年の1月3日まで
- (4) センターが別に定める日

3 適合証明業務を行う時間及びその休日については、緊急を要する場合その他正当な理由がある場合又は事前に申請者等との間において適合証明業務を行う日時調整が図られている場合は、前2項の規定によらないことができる。

(事務所の所在地)

第5条 適合証明業務を行う事務所の所在地は、主たる事務所を草津本部として草津市に置き、従たる事務所を大津事務所として大津市に、彦根事務所として彦根市に、近江八幡事務所として近江八幡市にそれぞれ置くものとする。

(業務を行う区域)

第6条 センターの業務区域は、滋賀県全域とする。

(業務を行う住宅)

第7条 センターは、新築住宅（既存住宅以外の住宅をいう。以下同じ。）の場合にあつては、センターの確認検査業務規程に定めるセンターが確認検査の業務を行うことができる住宅及びセンターの評価業務規程に定めるセンターが評価の業務を行うことができる住宅の適合証明業務を行う。また、既存住宅（改良住宅を行う住宅を含む。）の場合にあつては、すべての住宅の適合証明業務を行う。

- 2 センターは、センターの役員又は職員が建築主である住宅又は設計、工事監理、施工、販売、販売代理、若しくは媒介を行う住宅に係る適合証明業務を行わないものとする。

第2章 適合証明業務の管理及び実施の体制

第1節 適合証明業務の管理体制等

(適合証明業務の管理体制)

第8条 適合証明業務の実施に係る最高責任者は理事長とし、理事長は適合証明業務に係る管理の責任と権限をもつ適合証明業務に係る担当役員（以下、単に「担当役員」という。）を置く。

- 2 理事長は、適合証明業務が公正かつ的確に実施されるために必要と判断した場合には、随時、適合証明業務の管理体制の見直しを行う。

(適合証明業務の業務処理体制)

第9条 理事長は、適合証明業務がこの規程に従い公正かつ的確に実施されるよう申請住宅の規模や種類、業務区域及び業務量に応じた適合証明業務の業務処理体制を構築する。

- 2 適合証明業務は、それ以外の業務（確認検査の業務、評価の業務及び保険検査の業務等を除く。）を行う部署と異なる部署で行う。

第2節 適合証明業務実施者

(適合証明業務実施者の選任)

第10条 理事長は、適合証明業務を実施させるために適合証明業務実施者を選任する。

(適合証明業務決裁者の選任)

第11条 理事長は、適合証明業務の適否について最終的な判断を行わせるために適合証明業務決裁者を選任する。

(適合証明業務実施者の解任)

第12条 理事長は、適合証明業務実施者が次の各号のいずれかに該当する場合においては、当該適合証明業務実施者を解任する。

- (1) 適合証明業務実施者としての要件を満たさなくなったとき。
- (2) 業務違反その他適合証明業務実施者としてふさわしくない行為があったとき。
- (3) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えられないと認めるとき。

(適合証明業務実施者の配置)

第13条 理事長は、適合証明業務を実施するため、適合証明業務実施者を草津本部にそれぞれ3人以上、彦根事務所・近江八幡事務所・大津事務所にそれぞれ2人以上配置する。

- 2 前項の配置については、適合証明業務の実績に応じ、随時、見直しを行う。
- 3 適合証明業務実施者が、休暇を取る場合又は繁忙その他の事情により、当該事務所における適合証明業務を実施できない場合にあつては、他の事務所の適合証明業務実施者が当該事務所において臨時に適合証明業務を行う。また、緊急の場合にあつては、他の事務所において適合証明業務を行うことができる。
- 4 センターは、適合証明業務の申請件数が一時的に増加すること等の事情により、適合証明業務を適切に実施することが困難となった場合にあつては、すみやかに、新たな適合証明業務実施者を選任する等の適切な措置を講ずる。

(適合証明業務実施者への研修)

第14条 センターは、法令、機構の定める業務方法書及び事務処理に関する諸規範等に従い適合証明業務が的確に実施されるよう、すべての適合証明業務実施者に対して次の各号に掲げるいずれかの研修を一年度内に1回以上受講させる。

- (1) センターが実施する適合証明業務に関する研修
- (2) 機構が実施する適合証明業務に関する研修

(適合証明業務実施者の身分証の携帯)

第15条 適合証明業務実施者が、適合証明業務の対象となる建築物並びにその敷地及び工事現場に立ち入る場合においては、その身分を示す証明書を携帯し、必要に応じて関係者に提示しなければならない。

- 2 前項の身分証の様式は、別記1号様式による。

第3節 個人情報等の管理

(個人情報等の保護)

第16条 センターの役員及び職員（適合証明業務実施者を含む。）並びにこれらの者であつた者は、適合証明業務に関し

て知り得た秘密情報について、漏えい、滅失及びき損を防止するとともに、適合証明業務その他機構業務以外の目的での複製、利用等をしてはならない。

(個人情報等の管理)

第17条 センターは、適合証明業務に関して知り得た個人情報等の適切な管理のために必要な措置を講ずる。

第3章 適合証明業務の実施方法等

(適合証明業務実施者等の業務範囲)

第18条 適合証明業務実施者は、協定書第4条第3項に規定する適合証明業務を行うことができる住宅について、適合証明業務を行う。

2 センターは、次の各号に掲げる者が建築主である住宅又は設計、工事監理、施工、販売、販売代理、若しくは媒介を行う住宅に係る適合証明業務に当該適合証明業務実施者を従事させないものとする。

(1) 適合証明業務実施者

(2) 適合証明業務実施者の所属する企業（過去2年間に所属していた企業を含む。）

(適合証明業務の実施方法)

第19条 適合証明業務実施者は、法令、機構が定める業務方法書及び事務処理に関する諸規範等によるほか、適合証明業務マニュアル等により、公正かつ的確に適合証明業務を実施する。

2 適合証明業務マニュアル等に改訂があった場合は、すみやかに適合証明実施者に周知し、適合証明業務マニュアル等を最新の状態に維持する。

3 適合証明業務実施者は、適合証明業務について当該適合証明業務を実施した者以外の適合証明業務決裁者の決裁を受ける。

4 フラット 35 Sに係る新築住宅の設計検査(機構承認住宅(設計登録住宅)に係る設計検査又はエネルギーの使用の合理化に関する法律(昭和54年法律第49号)に基づく「住宅事業建築主の判断の基準」のみの設計検査は除く。)及び既存住宅の物件検査(耐震性に係る住宅又はバリアフリー性(中古タイプ基準を除く。)に係る住宅の物件検査に限る。)については、品確法第13条に定める評価員として選任されるための講習の課程を修了した適合証明業務実施者(役員又は職員に限る。)が検査し、又は品確法第13条に定める評価員として選任されるための講習の課程を修了した適合証明業務決裁者が決裁を行う。

5 賃貸住宅融資に係る設計検査(機構承認住宅(設計登録住宅)(省エネルギー性のみ)に係る設計検査又は低炭素建築物新築等計画に係る適合証による技術的審査を除く。)について、品確法第13条に定める評価員として選任されるための講習の課程を終了した適合証明業務実施者(役員又は職員に限る。)が検査し、又は品確法第13条に定める評価員として選任されるための講習の課程を修了した適合証明業務決裁者が決裁を行う。

(適合証明業務整理簿の作成)

第20条 センターは、設計検査、中間現場検査若しくは竣工現場検査・適合証明、物件検査・適合証明又は住宅改良工事に係る適合証明を行ったときは、別に定める適合証明業務整理簿に所定の事項を記録する。

第4章 料金等

(料金の額等)

第21条 センターは、申請者から収納する料金の額及び当該料金を収納する時期等については、別に定める「適合証明業務手数料規程」による。

2 前項の料金の額は、センターが行う適合証明業務の内容に応じて定める。

3 センターは、第1項の定め違反して、申請者から料金を収納しない。

4 料金の納入に要する費用は申請者の負担とする。

(料金の返還)

第22条 収納した料金は、返還しない。ただし、センターの責に帰すべき事由により適合証明業務が実施できなかった場合には、この限りでない。

第5章 適合証明業務の監視、改善方法

(監視人等の設置)

第23条 センターは、適合証明業務に関する諸規定等を遵守していることについて、監事により一年度内に1回以上確認を受ける。

(自主検査)

第24条 センターは、適合証明業務が的確に実施されていることを、自らの検査により一年度内に1回以上確認する。
(事務リスクの管理)

第25条 センターは、事務リスクと思われる事案が発生した場合は直ちに機構に報告する。
(再発防止措置)

第26条 センターは、適合証明業務に関して、不適切な処理が行われた案件を確認した場合は、再発防止措置をとる。この場合、再発防止措置は不適切な処理が行われた案件の影響に見合ったものとする。

第6章 その他適合証明業務の実施に関して必要な事項

(適合証明業務関係書類の保存期間)

第27条 適合証明業務整理簿は適合証明業務の全部を廃止するまでの期間保存することとし、設計検査及び現場検査に係る書類については、それぞれの適合証明業務の事業年度の翌年度から5年間保存することとする。

(適合証明業務関係書類等の保管の方法)

第28条 センターは、役員、職員等の出勤簿、旅行命令簿等適合証明業務に係る住宅の所在する場所に適合証明業務実施者が赴いた事実を証明できる書類、適合証明業務整理簿その他適合証明業務に関する文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）について、適正な作成及び授受、整理、保管、廃棄等の管理を行う。

2 適合証明業務整理簿その他適合証明業務に関する文書、図画及び電磁的記録の保存は、検査中にあつては検査のため特に必要がある場合を除き事務所内において、検査終了後は施錠できる室、ロッカー等において、確実であり、かつ、個人情報等の漏れることのない方法で行う。

3 第2項に掲げる書類等を廃棄する場合は、個人情報等が外部に流出しないよう十分に留意し、当該個人情報等の復元又は判別が不可能な方法により、当該個人情報等の消去又は当該媒体の廃棄を行う。

(適合証明業務取扱機関の掲示)

第29条 センターは、取扱開始日、機関の名称、代表者の氏名、主たる事務所の所在地及び電話番号、適合証明業務を行う区域並びに適合証明業務を行う住宅の種類を、適合証明業務を行う事務所において公衆に見やすいように掲示する。

(書類の備置及び閲覧)

第30条 センターは、適合証明業務を行う事務所に次の各号に掲げる書類を備え、適合証明を受けようとする者その他の関係者の求めに応じ、これを閲覧させる。

- (1) センターの適合証明業務に係る担当役員の氏名を記載した書類
- (2) センターの業務の実績を記載した書類
- (3) 適合証明業務実施者の人数を記載した書類
- (4) 適合証明業務に係る損害保険の契約内容を記載した書類（損害保険契約を締結している場合に限る。）
- (5) センターの適合証明業務に係る料金を記載した書類
- (6) センターの適合証明業務に係る事務処理等を規定した規程等

(事前相談)

第31条 申請者は、適合証明の申請に先立ち、センターに相談をすることができる。この場合においては、センターは、誠実かつ公正に対応する。

付 則

この規程は、平成15年10月1日から施行する。

この規程は、平成16年8月10日から施行する。

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

この規程は、平成25年4月1日から施行する。